



JASDAQ

2021年9月15日

各 位

会社名 株式会社 ユビテック

代表者名 代表取締役社長 大内 雅雄

(JASDAQ・コード6662)

問合せ先 役職・氏名

取締役広報マーケティング室長 松田 和宏

電 話 03-5447-6732

ユビテックグループ中期経営計画「ユビテック4.0」を策定

株式会社ユビテック（本社：東京都港区、社長：大内 雅雄、以下「当社」といいます）及びそのグループ会社（当社とあわせて「当社グループ」といいます）は、第46期（2022年6月期）から第49期（2025年6月期）の4ヵ年を対象としたユビテックグループ中期経営計画「ユビテック4.0」を策定したことをお知らせします。

1. 中期経営計画策定の背景と目的

当社は、IoT時代の到来を早くから見据え、1977年の創業以来、デバイス、センシング、ネットワーク、ソフトウェアのあらゆるIoT要素技術を培ってきました。さらに近年では、データ分析におけるAI技術を習得し、独自の解析エンジンの開発も行っています。さまざまなデータを「とり」、それを「つなぎ」、「ため」、さらに「いかす」ことのできるIoTサービスをワンストップで提供していることが私たちの強みです。

しかしながら、収益基盤であった製造受託事業において市場環境の変化に対応できなかったことに加え、当社が生産・販売しているテレマティクス車載機製品について、その一部に不具合の可能性が確認され、当該製品の自主回収を行い、ファームウェアの修正及び再発防止に向けた社内体制の強化を実施するなど、製品の再出荷に向けた対応を進めておりましたが、業績の回復に想定以上の時間を要しています。

このような課題認識の下、顧客ニーズや社会変化に対応し、高品質で持続的な価値創造を実現する新たな経営基盤の確立を目的とし、以下のとおり、ビジネスコンセプトと事業ポートフォリオの抜本的見直しによる本中期経営計画を策定しました。

2. 中期経営計画「ユビテック4.0」の概要

(1) 対象期間

第46期(2022年6月期)から第49期(2025年6月期)までの4ヵ年

(2) 企業理念と顧客提供価値

企業理念 「人と社会に安全と快適を」

顧客提供価値

1. お客様の健康と安全を守る [Protect your Health and Safety]
2. 社会変革と多様性に応じた最適な答えを導き出す [Smart-Select & Smart-Matching]

(3) ビジョン

IoTテクノロジー × AI・データ活用 + 外部サービス連携 で
お客様の企業経営と生活を支え、新たな社会常識を創造するイノベーションカンパニーへ

(4) 経営方針

- ① オリックスグループシナジーを最大化し、事業運営基盤を再構築
- ② AI・データ活用による価値創造をサービスの柱に
- ③ OpenAPI※1による外部サービス連携で利便性の高い統合サービスを構築
- ④ モビリティ、エネルギー事業の新たなビジネス開発
- ⑤ 安全で高品質なものづくり体制を再構築
- ⑥ 人材開発と外部有識者の連携強化、営業・マーケティング力の向上

※1) Application Programming Interface

(5) 新たな事業領域

- ① モビリティ、エネルギー分野における新たな社会基盤構築
 - －安全性・汎用性の高い高機能車載機の開発、新たなドライバー安全見守りサービスの開発
 - －地域分散社会／スマートシティ化に向けたXaaS※2プラットフォームを開発
- ※2) X(Everything) as a Service [モビリティ分野:U-MaaS※3、エネルギー分野:U-EaaS※4]
※3) Mobility as a Service ※4) Energy as a Service
- ② BtoB AI・データソリューション
 - －従業員を守り、企業成長に繋がる経営改善や競争力を生み出すAI・データ活用サービスを開発
 - －「Work Mate」および「D-COLLECT」の訴求力あるサービスを成長ビジネスへ

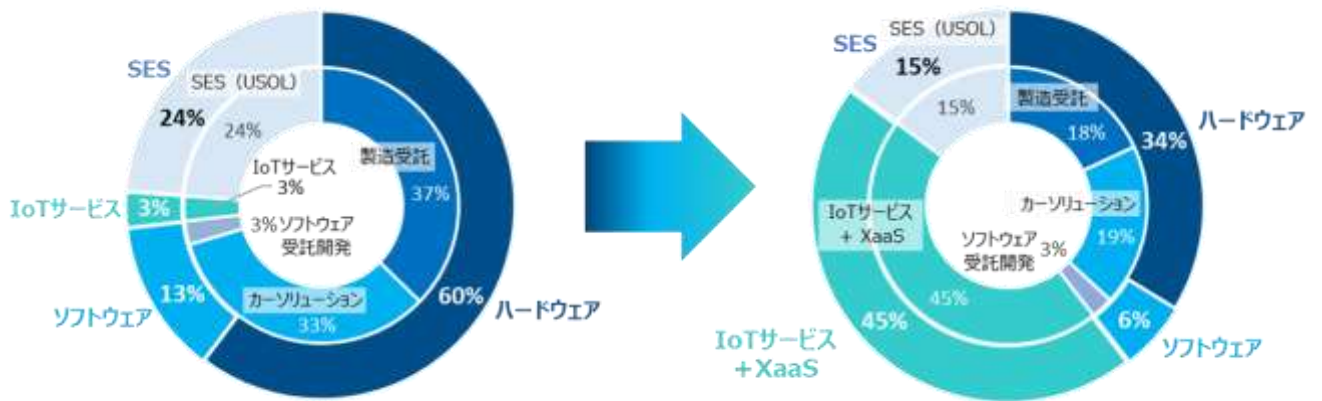
3. 中期経営計画の数値目標

特定のハードウェア製品の量産販売中心の形態から、ユーザーニーズに合わせた付加価値と可変性の高いサービス形態への移行で、ユーザー数と単価向上を目指します。

	45期(2021/6期)	...	49期目標(2025/6期)
ユーザー数※5	130,000	...	200,000
ユーザー単価	9,931 円/ユーザー数・年	...	15,000 円/ユーザー数・年
連結売上高	1,291 百万円	...	3,000 百万円
連結営業利益	-139 百万円	...	300 百万円

※5) IoTデバイスの利用台数、IoTサービスの利用ID数・監視製品数等の合計

[売上高セグメント比率の変革]



当社グループでは、「人と社会に安全と快適を」を新たな企業理念として、「お客さまの健康と安全を守る」こと、「社会変革と多様性に応じた最適な答えを導き出す」ことを目的とし、従来のIoTテクノロジーに加え、AI・データ活用と外部サービス連携を今後のコア技術の柱と位置づけ、IoTアプリケーションサービスならびにXaaS型ビジネスの開発・伸長に注力してまいります。これにより、ビジネスコンセプトならびに事業ポートフォリオを抜本的に改革し、顧客ニーズと社会変化に対応して、常にサービスの価値創造を続ける持続的かつ可変的なビジネスモデルへ変革します。この変化対応への覚悟と、そして何よりも新しい社会への好奇心を、当社グループの基本精神にして成長してまいります。

以上

ユビテックグループ 中期経営計画

ユビテック4.0 2022/6期～2025/6期

株式会社ユビテック

History

親会社：
新日本製鉄（現日本製鉄）

インターネット総合研究所

オリックス～

(2022/6期～2025/6期)

1.0期

センサーデバイスユニット化 製造受託

-Device Manufacturing

- 液晶PJ用HD映像エンジン
開発
- 液晶TV用HD映像エンジン
開発
- ATM磁気センサー開発
- コークス炉カメラ開発

2.0期

IoT ソリューション開発 - 国プロ、大学連携

-Device Manufacturing
-Network Engineering
-Software/Application

- 次世代インターネットプロトコル
(IPv6) 対応
Building Exchange (BX)
製品化
- カラオケ機器OEM製造
- 省エネソリューション
ネット型BEMS
「Be Green Next」販売

3.0期

IoT ソリューション開発 - オリックス自動車

-Device Manufacturing
-Network Engineering
-Software/Application
-AI、DataAnalytics

- カーシェアリング開発・運用
- テレマティクス開発・運用
- ビデオ会議システム
「Cansee」販売

4.0期

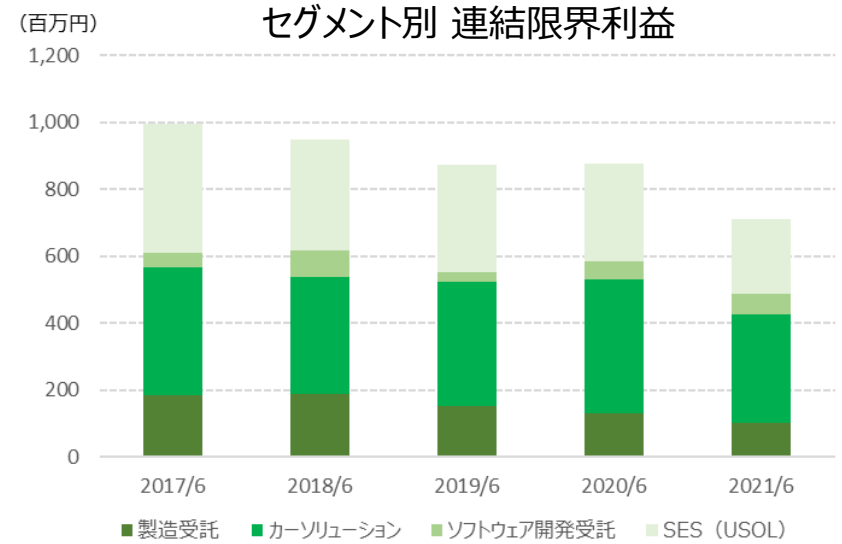
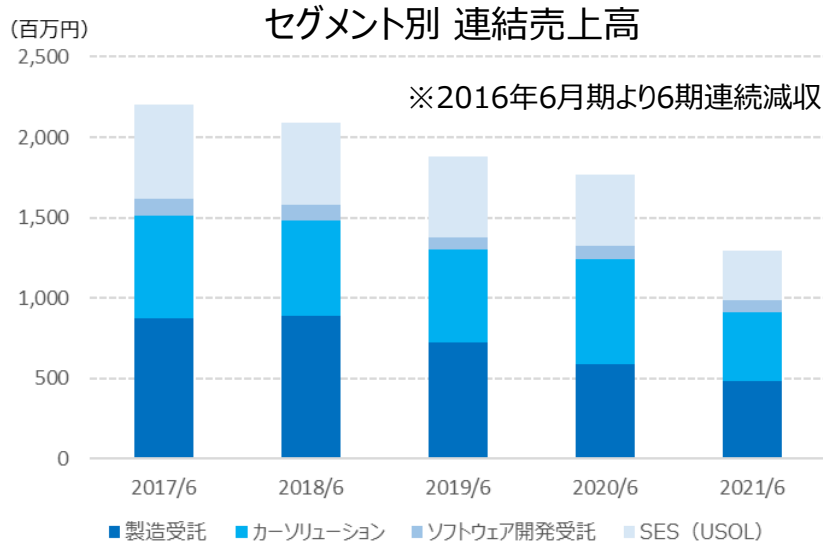
新中期経営計画 ユビテック4.0

-Device Manufacturing
-Network Engineering
-Software/Application

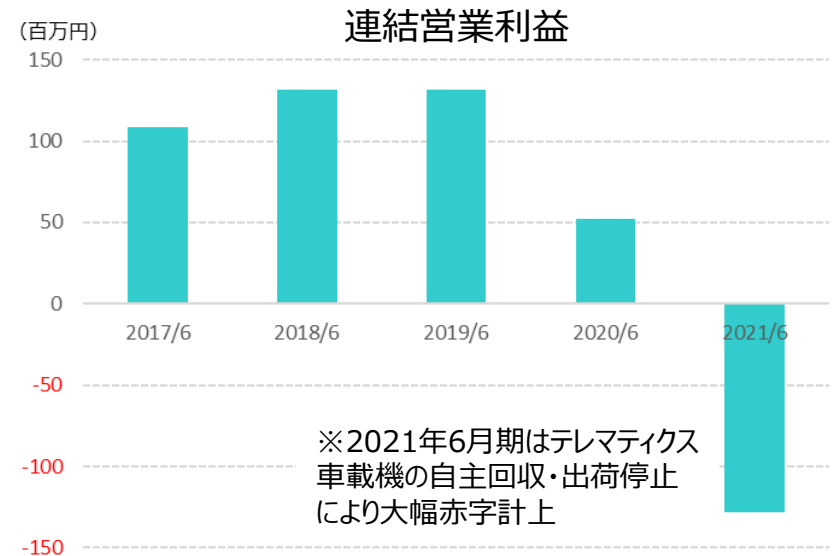
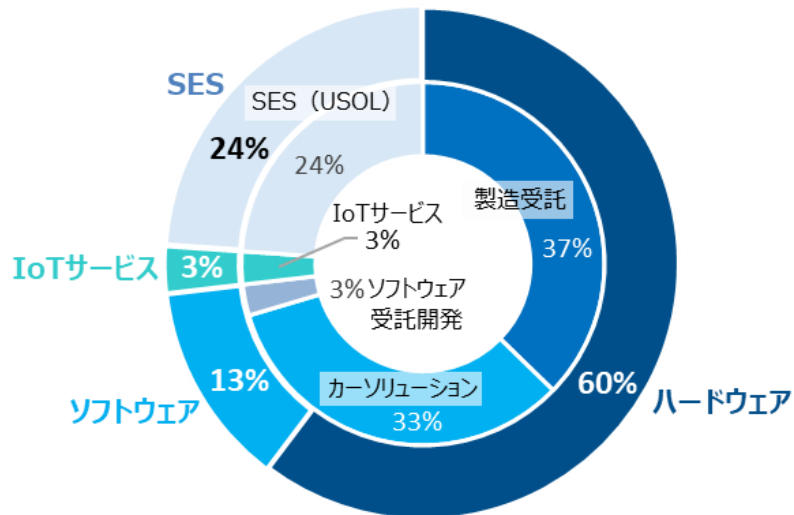
-AI、DataAnalytics
**-Open API/Partnership
with External Service**

**IoTテクノロジー×AI・データ活用
+外部サービス連携 をコア技術に**

1. 連結業績推移



45期 (2021/6期) セグメント比率



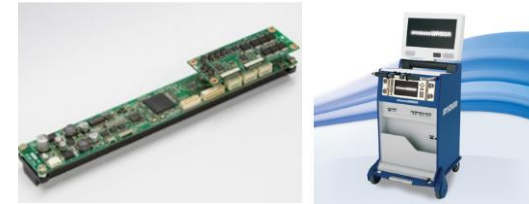
2. セグメント別概況



製造受託

- ✓ 紙幣鑑別センサモジュールはキャッシュレス化の進行、コロナウイルス感染症拡大に伴う部材調達遅れ等の影響もあり、受注減少
- ✓ カラオケ機器はコロナウイルス感染症拡大の影響により、需要が大幅減少

※ 製造受託製品の例



カーソリューション

- ✓ 2020年6月期まで堅調推移、2021年6月期においてはテレマティクス車載機の自主回収開始後における当該製品の出荷停止の影響により、大幅減収減益

※ テレマティクス車載機



ソフトウェア受託開発／SES（ユビテックソリューションズ）

- ✓ 競合環境激化とコロナウイルス感染症拡大に伴う影響で減少傾向

3. 対処すべき課題



既存商材への高度依存と社会変化への対応の遅れ

- ✓ 既存の紙幣鑑別センサモジュールやカラオケ機器、テレマティクス車載機のレガシーのデバイス商品への依存度が極めて高い
 - 顧客ニーズや社会の変化に対応した、新たなデバイスやサービス開発に遅れが生じた



品質評価管理体制の強化が急務

- ✓ 内部牽制機能の効く、独立した品質マネジメント体制が不十分であり、開発および品質評価におけるリスクアセスメントの改善も必要
 - テレマティクス車載機の不具合、市場流出が発生



営業、マーケティング力の欠如

- ✓ 主要固定顧客への依存度が極めて高く、顧客基盤拡大、自社での営業・マーケティング体制の強化が必要

4. 企業理念と顧客提供価値

企業理念 「人と社会に安全と快適を」

顧客提供価値

Protect your Health and Safety

1. お客様の健康と安全を守る

anytime anywhere

Work Mate

ドライバー安全管理サービス

テレマティクス

Smart-Select & Smart-Matching

2. 社会変革と多様性に応じた最適な答えを導き出す

according to your needs

U-MaaS

U-MaaS × U-EaaS

U-EaaS

カーシェアリング

D-COLLECT

EP100化

5. ミッション・ビジョン・バリュー

ビジョン

IoTテクノロジー × AI・データ活用 + 外部サービス連携 で

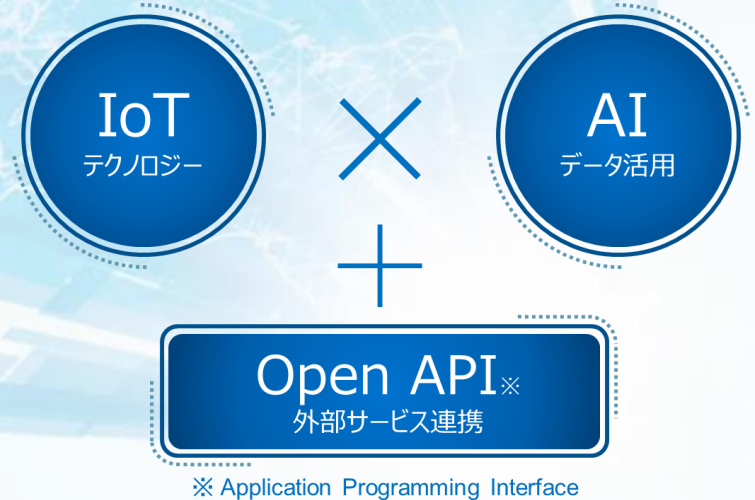
お客さまの企業経営と生活を支え、新たな社会常識を創造するイノベーションカンパニーへ

ミッション

サステナブルな企業経営と
社会基盤構築へ貢献する

バリュー

お客さまとの対話で目標と課題に寄り添い、真の事業パートナーに
お客さまの経営課題を解決する データ価値創造 を実現
外部サービス連携 でお客さまの自由度が高く可変的な活動をサポート
モビリティ、エネルギーの 新たな社会基盤 を構築
安全で高品質なものづくり体制を構築



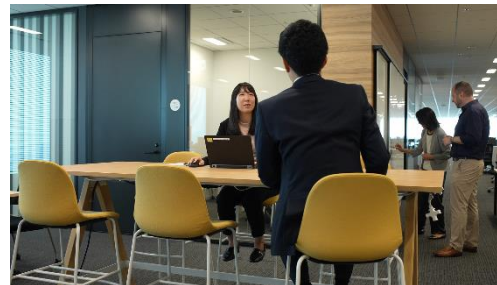
6. 経営方針



オリックスグループシナジーを最大化し、事業運営基盤を再構築

- ✓ 従来、高依存であったレガシーのデバイス、サービスから脱却し、オリックスグループの事業基盤、顧客基盤を最大限に活かした新たな事業運営へ転換
- ✓ オリックスグループ各事業部門、事業子会社へ人材出向し、インハウスで、業務・事業運営ドメイン知識を習得
※既にオリックス自動車、オリックス環境エネルギー本部、オリックス銀行へ人材出向を開始
- ✓ 上記体制のもとで、アジャイル開発を実行し、顧客ニーズと社会変化に対応した現場で有効に機能するユビテックの新サービス開発とともに、人材開発を実行

※ オリックスグループへの出向・連携イメージ（オリックス東京本社：世界貿易センタービル南館にて）



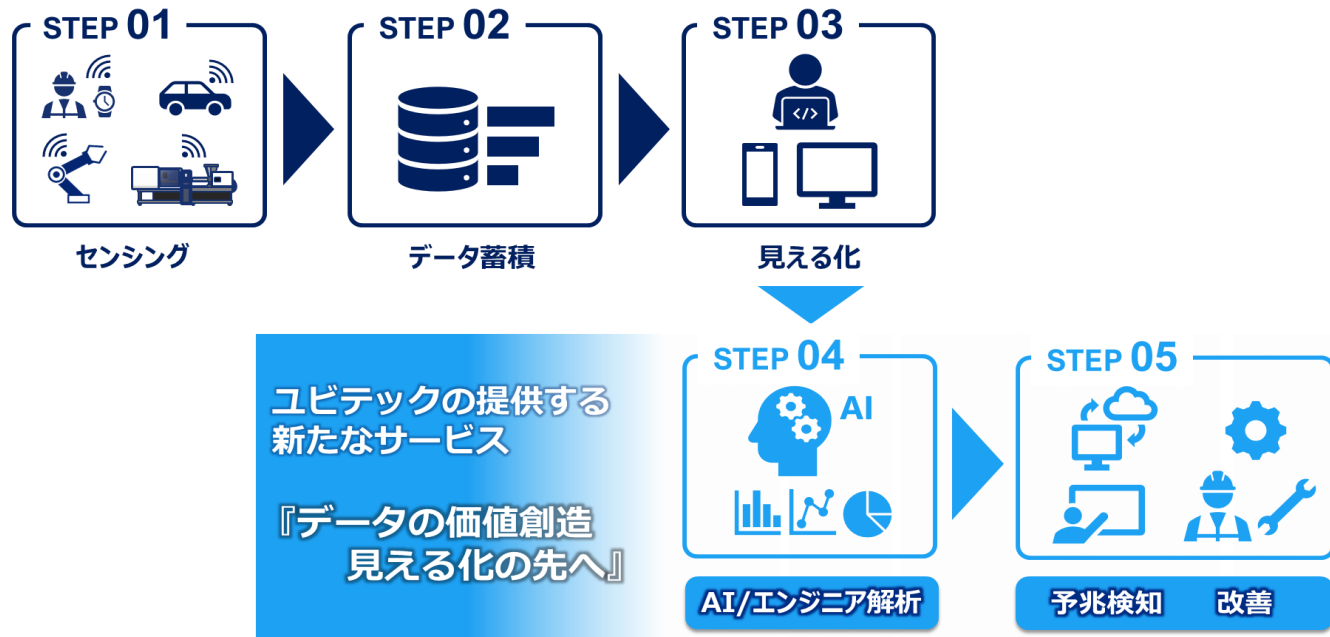
6. 経営方針



AI・データ活用による価値創造をサービスの柱に

- ✓ AI・データ活用を価値創造の柱とし、サービスの訴求力を構築する
- ✓ AI・データ活用により、企業成長に必要な**経営改善**や**競争力を生み出す「答え」**を創り出す
- ✓ 経営資源であるデータを、お客さま個別の**課題解決**、**現場改善**に直接転換する

※ 従来のIoTサービスと、ユビテックの目指すAI・データ価値創造によるサービス展開



6. 経営方針



OpenAPIによる外部サービス連携で利便性の高い統合サービスを構築

- ✓ AI・データ活用により利用者にとって付加価値の高いサービスを構築し、求心力を持って自社サービスをOpenAPIで運用し、外部サービスとWin-Winな連携を図る
- ✓ サービスが企業運営と生活の一部としてシームレスに利用され、迅速な価値提供と変化への対応により、お客さまの生産性向上と現場効率化を実現
 - 利便性の高い 統合アプリケーションサービス を構築
 - 販売チャネルの増加、高度な価値創造、コスト削減でアップセルを目指す

※ 外部サービス連携による統合サービスのイメージ例 【現場管理の一元化／デジタルツインの実現】



6. 経営方針



モビリティ、エネルギー事業の新たなビジネス開発

- ✓ モビリティ：
オリックス自動車と連携し、カーシェア等新型車載機や新たなドライバー向け安全見守りサービス、スマートシティ等向け **U-MaaS※1プラットフォーム** の実証・開発を計画
- ✓ エネルギー：
オリックス環境エネルギー本部と連携し、**EP100※2化サービス**や、地域分散化するエネルギー事業で、各サービスのデータとシステム連携を行い、新たな統合サービスを提供する**U-EaaS※3プラットフォーム** の実証・開発を計画
- ✓ モビリティ×エネルギー：
地域分散社会、EVを介しての親和性高く、それぞれのXaaSの連携・統合、ならびに新たな **EVのRE100※4充電サービス** の実証・開発を計画

※1) Mobility as a Service ※2) Energy Productivity 100%
 ※3) Energy as a Service ※4) Renewable Energy 100%

※ 各事業領域のイメージ



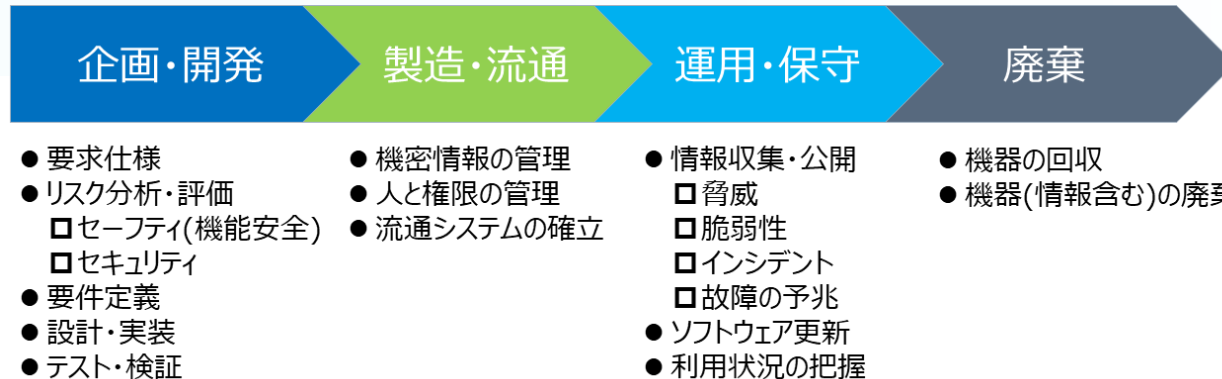
6. 経営方針



安全で高品質なものづくり体制を再構築

- ✓ 社内第三者として安全性評価を実施する「製品安全保証チーム」を組織化
→ 品質に関する「社内統制責任の明確化」と「顧客との関係の強化」
- ✓ 具体的な判断基準に基づく問題発生時の事象定義と対応ルールを再整備
- ✓ セキュリティ対策（情報保護）とセーフティ対策（機能安全）を両輪で推進
→ Security & Safety by Design※1 に基づく製品・サービスの開発
→ 製品ライフサイクル（企画・開発～廃棄まで）を考慮した開発を行う
※企画段階で危険源を分析し、リスクに併せた対策で製品安全性を向上する

Security & Safety by Design に基づく製品開発



※1) セキュリティ対策の考え方として謳われる“Security by Design”を基にした造語
Security by Designとは、システムなどの開発において、製品の企画段階からセキュリティ機能について検討し、各工程の中でそれらの機能が確実に実装されていることを確認する一連の取り組み（内閣サイバーセキュリティセンター（通称：NISC）の「サイバーセキュリティ戦略」に明記）

6. 経営方針



安全で高品質なものづくり体制を再構築

- ✓ 安全安心なAI・データ活用と外部サービス連携（OpenAPI）には、提供システム全体を網羅する **多層防御** により、セキュリティ上の脅威に対応
 - 想定し得るあらゆる脅威への対策を施したIoTシステムを提供
 - Fintech等金融系の開発標準に準拠
(例:接続適格性、暗号化、認可、認証、監視など)

※ 各システム分野における脅威と対策例

分類	脅威	対策例
API	・ なりすましによる不正侵入 → 情報漏洩	・ 金融系OpenAPI標準に準拠した連携認可機構
通信	・ データ盗聴・改竄	・ 通信暗号化 ・ 端末/ユーザ認証
システム	・ DDoS、不正侵入 ・ 脆弱性をついた侵入 ・ マルウェア感染 ・ データ搾取	・ システムへの侵入検知・防御 ・ 脆弱性診断・修正適用、WAF ・ マルウェア対策 ・ データベース保護対策
デバイス	・ 外付けネットワークI/Fからの侵入 ・ 機器の物理破壊による侵入 ・ リモートアップデートを悪用した不正ファームウェア書換	・ 外部インタフェース無効化 ・ 物理破壊対策 ・ 不正更新対策
業務・人	・ 内部不正 ・ 標的型攻撃 ・ 不注意による情報漏洩	・ ISMS※1 / ISMSクラウドセキュリティ※2 認証 ※2020年1月認証取得済

※1) 情報セキュリティマネジメントシステム (ISO/IEC 27001 : 2013)

※2) クラウドサービスに係る情報セキュリティマネジメントシステム (ISO/IEC 27017 : 2015) いずれも、国際規格に基づく認証

6. 経営方針



人材開発と外部有識者の連携強化、営業・マーケティング力の向上

- ✓ オリックスグループの各事業領域、事業子会社への人材出向・連携
→ 業務・事業運営ドメイン知識の習得・教育により、新たなビジネス基盤を構築
- ✓ 従来より取り組んできたAI・データ分析の更なる人材・技術強化とともに、各サービス開発で外部有識者や大学、専門機関とのアドバイザリー契約を推進
→ 専門知識、評価精度を向上
- ✓ オリックスグループの強固な営業基盤との連携に加え、デジタルマーケティングやインバウンド営業を積極的に推進
→ お客さま・社会ニーズの把握と加速度的な販路拡大、社会認知度を向上

※ 社内風景



7. 新たな事業領域

1 新たな社会基盤構築

地域分散社会／スマートシティ化
に向けた XaaS※プラットフォーム開発
※) X (Everything) as a Service



モビリティ

オリックス自動車と連携
ドライバー安全見守りサービス、高機能車載機の開発
U-MaaS プラットフォーム開発

I/F



エネルギー

オリックス環境エネルギー本部と連携
U-EaaS プラットフォーム開発

2 BtoB AI・データソリューション

従業員を守り、企業成長に繋がる経営改善や
競争力を生み出す AI・データ活用サービス



Work Mate

AI・データ活用で事故を“未然”に防ぎ、
現場の「事故ゼロ」を目指す

AI



D-COLLECT

AI・データ活用で製品不良改善による
「収益改善」と「技能承継」を目指す

8. 連結業績目標 セグメント比率

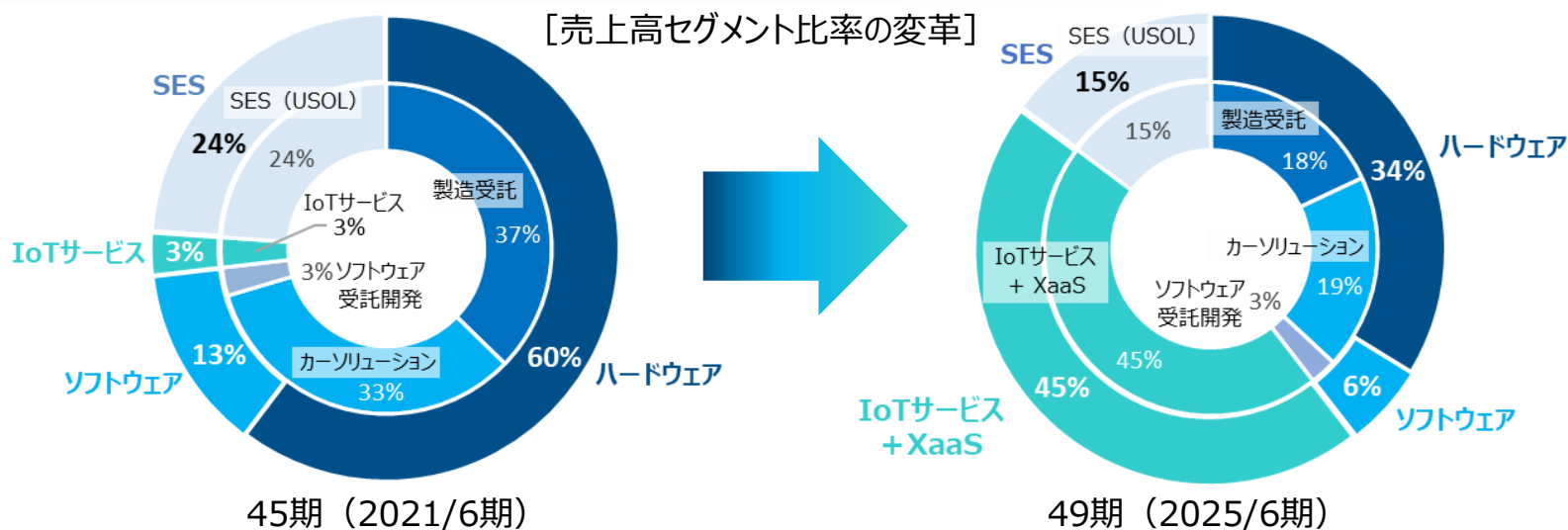


数値目標 と ビジネスコンセプト／事業ポートフォリオの变革

	45期 2021/6期	...	49期 目標 2025/6期
ユーザー数※	130,000	...	200,000
ユーザー単価 [円/ユーザー数・年]	9,931	...	15,000
連結売上高 [百万円]	1,291	...	3,000
連結営業利益 [百万円]	▲139	...	300

※ 特定のハードウェア製品の量産販売中心のビジネス形態から、ユーザーニーズに合わせた付加価値と可変性の高いサービス形態への移行で、ユーザー数と単価向上を目指します

※) IoTデバイスの利用台数、IoTサービスの利用ID数・監視製品数等の合計



※ 配当金額は業績目標達成状況、および事業展開に必要な内部留保等を総合的に勘案し、44期（2020/6期）の水準以上を目標とし、可能な限り早期に復配できるよう、業績の改善に努めてまいります

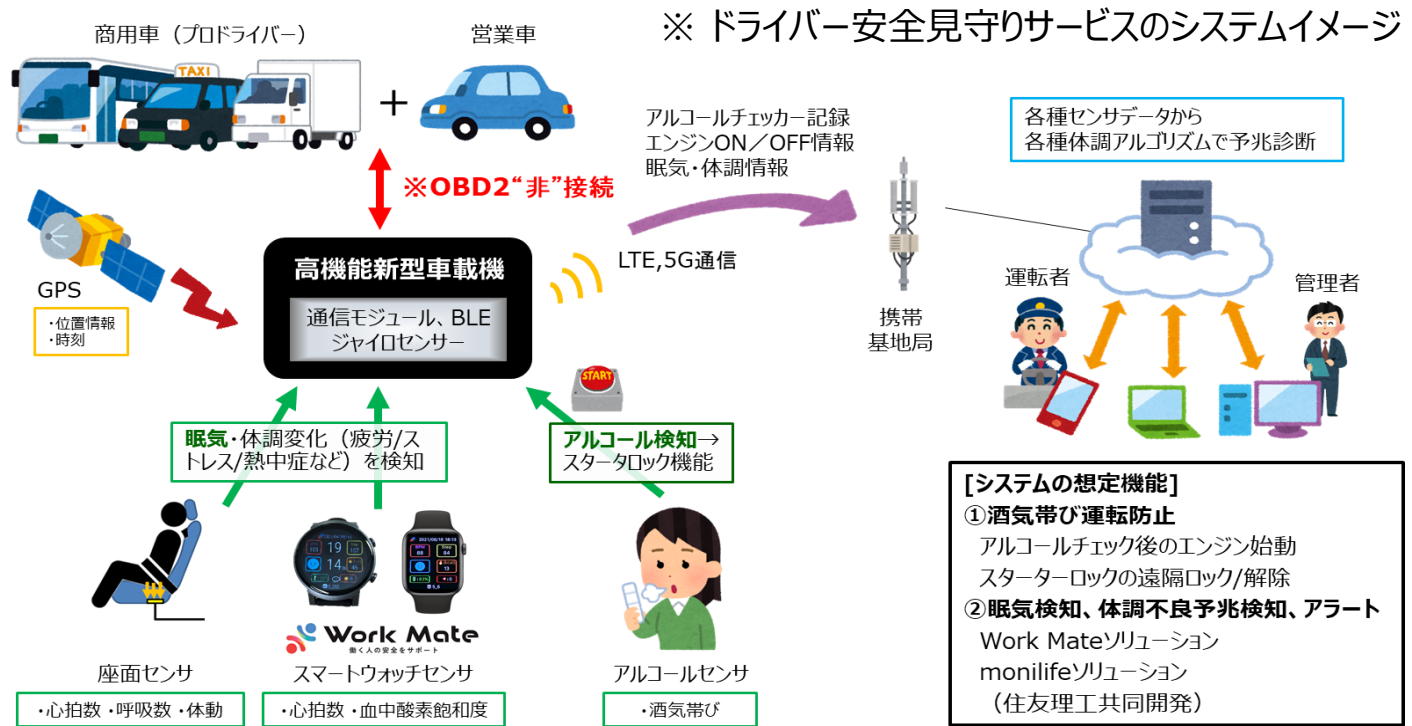
參考資料

1. モビリティ

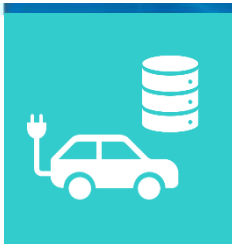


ドライバー安全見守りサービス、安全性の高い高機能車載機の開発

- ✓ 高セキュリティ、脱カーナビ、配線レスにより高い安全性と汎用性を確保するとともに、自社ならびに外部デバイス連携による高い機能性を有した新型車載機を開発
- ✓ 呼気確認（アルコールチェック）後にエンジンONを可能とするシステムを開発
- ✓ Work Mate や外部デバイス連携により、眠気・体調不良を検知し、アラート通知するシステムを開発



1. モビリティ



U-MaaS プラットフォームの開発

- ✓ オリックス自動車と連携し、各サービスやシステムが提供しているAPIを接続する U-MaaSプラットフォーム を開発・実装
- スマートシティ向けに「自由に可変する交通インフラ」のシステム開発を計画

※ U-MaaS の開発イメージ



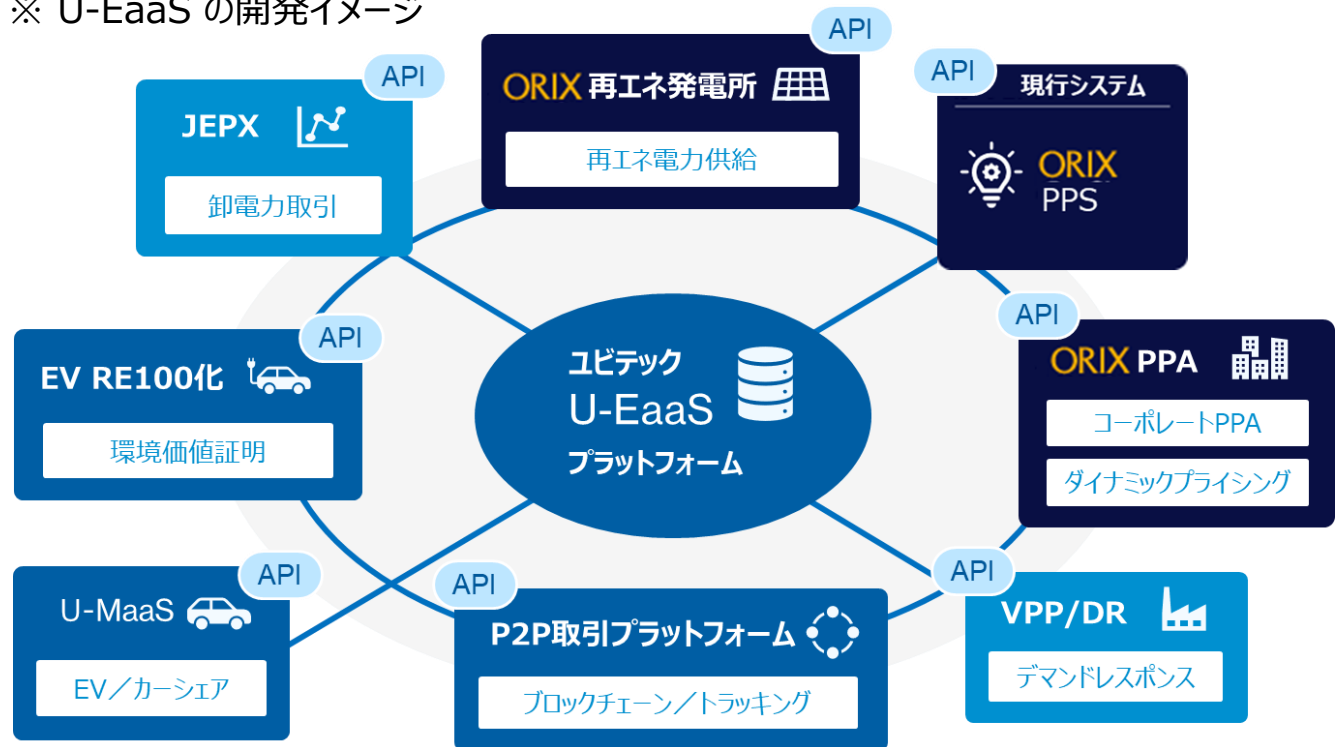
2. エネルギー



U-EaaSプラットフォームの開発

- ✓ オリックス環境エネルギー本部と連携し、EP100化サービスや、各サービスやシステムが提供しているAPIを接続する U-EaaSプラットフォーム を開発・実装
→ お客さまに対する「統合エネルギーサービス」のシステム開発を計画

※ U-EaaS の開発イメージ



3. モビリティ×エネルギー

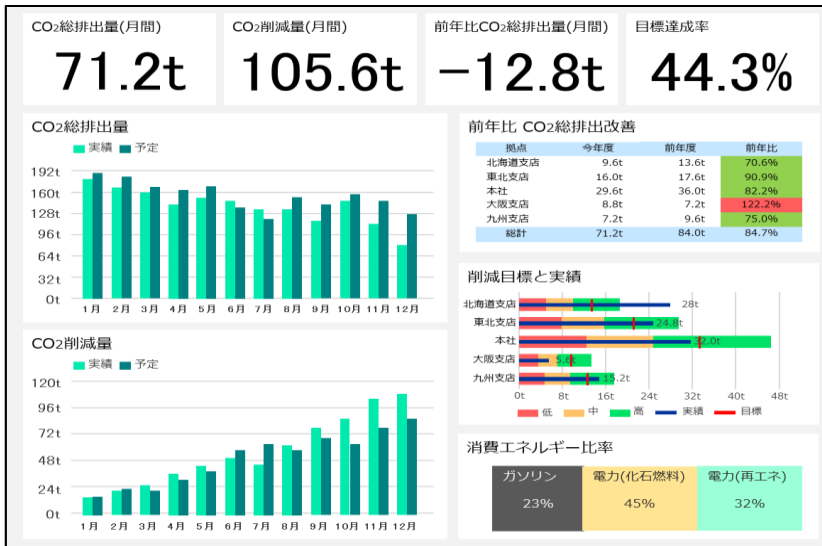


モビリティ×エネルギー事業の新たなビジネス開発



※ EVのRE100充電サービス 車両給電情報／CO2削減レポートのダッシュボードイメージ

登録番号	部署コード	部署名	社員番号	運転者名(姓)	運転者名(名)	車両番号	燃料の種類	給油/給電回数(回)	CO2総排出量(t)	CO2排出量(g/km)	再エネ比率(%)	AC Power(kW)	WLTP Range(km)	Real Range(km)	AC Plug	DC Power(kW)	DC Plug
〇〇〇〇	B0001	営業1部	S0001	山田	花子	KU3001	ガソリン	546	18.6	176	0	-	-	-	-	-	-
〇〇〇〇	B0002	営業2部	S2002	井上	太郎	KU9001	ガソリン	1,246	32.4	194	0	-	-	-	-	-	-
〇〇〇〇	B0002	営業2部	S2003	上野	三郎	KU3601	ガソリン	546	18.6	193	0	-	-	-	-	-	-
〇〇〇〇	B0001	営業1部	S0201	北野	順子	KE4441	EV	764	0	0	64.4	7	410	335	Type 2	90	CCS
〇〇〇〇	B0001	営業1部	S0001	太田	洋平	KH3331	PHV	996	10.2	188	12.1	11	446	375	Type 2	155	CCS
〇〇〇〇	B0001	営業1部	S0001	木下	正人	KU3001	EV	1023	0	0	100.0	11	350	295	Type 2	120	CCS
〇〇〇〇	B0001	営業1部	S0001	根岸	純一	KU3001	EV	883	18.6	151	83.3	7	460	380	Type 2	-	-
〇〇〇〇	B0001	営業1部	S0001	梨木	洋子	KU3001	PHV	12	1.6	166	22.6	7	490	410	Type 2	-	-



4. Work Mate



Work Mate 事故を“未然”に防ぎ、現場の「事故ゼロ」を目指す

- ✓ 実証実験で得たバイタルデータを解析し、**熱中症の「予兆」を検知** するアルゴリズムを独自開発、さらに **個人特性をAI学習** し、精度が進化
- ✓ 休憩のタイミングから、**回復状態** まで通知
- ✓ 今夏より、多数企業で実証・採用を開始
- ✓ ヒヤリハットや労災事故の原因となる「**眠気検知**」の**新たなアルゴリズム**を実証中

※ 鹿島建設株式会社、
キンビール株式会社での利用例



※ Work Mate の
システム・特徴



※AppleWatchにも対応

- 01 熱中症予兆検知※1**
作業者のバイタル情報と周囲の温湿度状態を把握して熱疲労レベルを推定。
- 02 転倒・転落検知**
作業者が転倒・転落した際に管理者へアラート通知
- 03 SOSアラート通知機能**
スマートウォッチ上で所定の操作をすることで作業者から管理者へSOS発報が可能
- 04 屋内外位置測位**
作業者の現在の屋内外作業場所を測位し、リアルタイムにウェブ画面に表示
- 05 バイタル情報測定**
バイタル、活動量を可視化 (パルス、身体負荷、体調変化、歩数、カロリー)

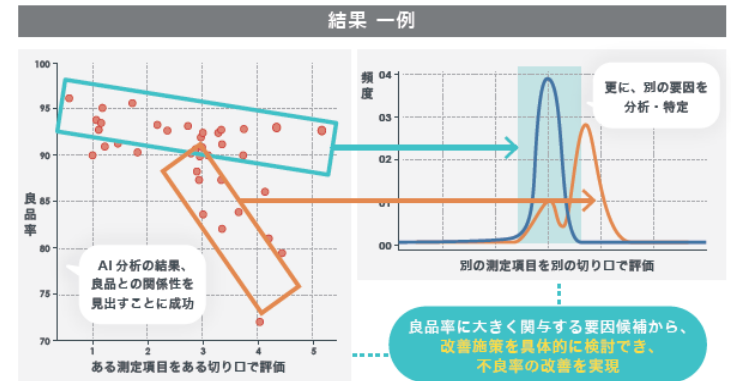
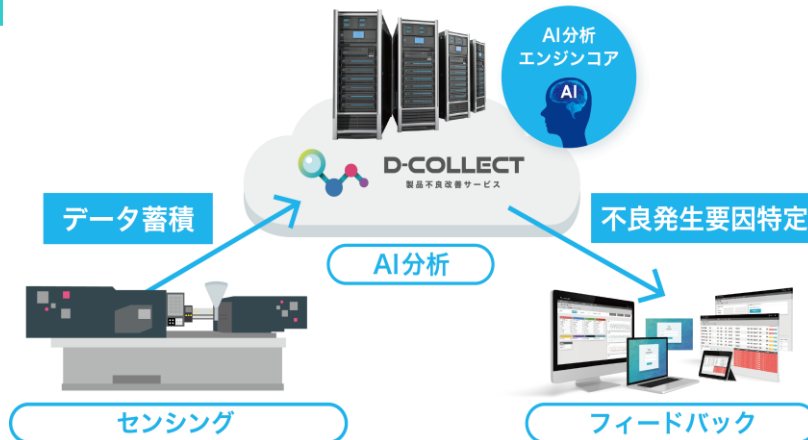
5. D-COLLECT



D-COLLECT 製品不良改善による「収益改善」と「技能承継」を目指す

- ✓ 原材料・生産設備・金型等からセンシングしたものづくりデータを蓄積、AI解析で製品不良要因を特定
- ✓ 現場の業務フローに応じた 自動化の改善システム構築
- ✓ 自動車部品製造業を中心に、多数の実績を構築

※ D-COLLECT のシステム・実績例



自動車部品製造 A社	自動車部品製造 B社	自動車部品製造 C社
不良率 8.6%	不良率 3.0%	不良率 3.6%
対象製造コスト 5.2 億円	対象製造コスト 1.0 億円	対象製造コスト 6.8 億円
プラスチック成形	プラスチック成形	金属加工
不良種類 シルバー/バリカスほか	不良種類 ムラほか	不良種類 欠肉/肌不良ほか
解析パターン数 10,000 パターン以上	解析パターン数 40,000 パターン以上	解析パターン数 50,000 パターン以上

本資料に掲載されている、株式会社ユビテック（以下「当社」といいます）及びそのグループ会社（当社とあわせて「当社グループ」といいます）の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に係る見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の判断に基づいております。

従いまして、これらの見通しのみにより全面的に依拠することはお控えくださるようお願いいたします。

実際の当社グループの業績は、外部環境および内部環境の変化による様々な潜在的なリスク及び不確実性※により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることを、ご承知おきください。

本資料に掲載されている将来情報に関する記述は、上記のとおり当該資料の作成時点のものであり、また、監査を経していない財務情報も含まれており、当社は、その内容の正確性、完全性、公正性及び確実性を保証するものではありません。

本資料に掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、いかなる有価証券、金融商品又は取引についての募集、投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

従いまして、本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。

なお、本資料の著作権やその他本資料にかかる一切の権利は株式会社ユビテックに属します。

※ 潜在的なリスクや不確実性については、有価証券報告書の「事業等のリスク」に記載されておりますが、これらに限られるものではありません。